

にのみや学園通信

二宮町幼稚園・保育園・小学校研修会開催される

一色小の実践発表より

8月20日(水)、二宮町民センターにおいて、二宮町幼稚園・保育園・小学校研修会が開催されました。今年度は52名の先生方が参加しました。最初に一色小学校の本荘紀美子先生から、(1)町の概要、(2)スタートカリキュラムのねらい、(3)一色小学校の実践、(4)成果と課題の4つについて報告がありました。先生は17枚ものスライドを活用され、わかりやすく丁寧に説明をしてくれました。

幼稚園の先生からは、『一色小学校でのスタートカリキュラムについての発表では、「どんな事をするのだろう?」「何があるんだろう?』と大人もワクワクする場所が設けられており、「やってみる」という一色小学校の先生方の強い気持ちや願いが込められている様子がよく分かりました。』という感想をいただきました。また、小学校の先生からは『子ども達のやりたい気持ちを大切にしたいし、そのような心のゆとりを大事にしたいと思います。私たち教師は、授業のねらいを大切にしつつ、子ども達が主体的に学ぶために、どのような課題を設定したらよいか。子ども達のこれまでの育ちや持っている能力を踏まえて、見通しをもって、学習や授業をデザインしていくと良いと改めて思いました。』という感想をいただきました。

その後、東海大学児童教育学部児童教育学科准教授の寶來生志子先生から「幼稚園・保育園・小学校の連携の推進について～子どもの学びや育ちの連続性を大切にしたスタートカリキュラムについて～」という演題でご講演をいただきました。

寶來先生は、動画とスライドを活用し、『1年生はゼロからのスタートではない。子どもの考えるチャンスを奪わない。知識を押し付けない、否定しない、待つことが大切。子どもの意思を尊重し、任せる。』といった発想の転換を図ることを熱く語ってくれました。

寶來生志子先生の講演より

さらにご講演終了後に、グループ協議・質疑応答・感想記入を行いました。感想には、今回の研修会に参加してくださった方がそれぞれ多くの学びを得たことがうかがえました。その一部を紹介します。

・子ども達のやりたい気持ちを大切にしたいし、そのような心のゆとりを大事にしたいと思います。私たち教師は、授業のねらいを大切にしつつ、子ども達が主体的に学ぶために、どのような課題を設定したらよいか。子ども達のこれまでの育ちや持っている能力を踏まえて、見通しをもって、学習や授業をデザインしていくと良いと改めて思いました。

・主体的で対話的な深い学びとよく言われるが、本来、こども(幼児期)は、主体的で対話的であることと大人が理解して、その姿や力をサポートし、様々な力につなげていこうと思いました。これからも子どもから学び続けたいと思います。

・前の学校段階で学んだことを生かしていくという考え方とは、中学校と小学校の連携においても同じ事が言えると思いました。小学校でできたことを生かして、中学校でもできることを増やしていくという考え方方が大切だと思いました。子どもの主体性を無駄にせず、見守るという姿勢も、子どもの達成感のために重要だと感じました。

・二宮町は、この幼小連携の取組みを長く続けていること、教育委員会、各小学校等、皆様のご尽力に寄ることであると感謝しています。ここ数年、私ども幼稚園も幼小連携の研究に主体的に取組むことを進めています。教育の方法等、反省も含めて、研修会に於いて学ぶことが大きいです。まずは、“子どもの声を聞く” “子どもを信じる” “子どもをよく見る” 等、学びを次の保育に活かしていきます。

にのみや学園では、今年度も引き続き、子どもたちや先生同士の交流の機会を大切にして、学園目標「認め合い、高め合う、二宮の子」の実現を目指していきます。

感想等はこちらのフォームにお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>

2.スタートカリキュラムのねらい

- ・安心感のある学校生活を通じて、自分の力を発揮できるようにする。
- ・幼稚園や保育園で身に着けた力を発揮して、主体的に学ぶことができるようになります。

入学式の話を思い出しました
「サイ」ではなく「ゾウ」になってほしいな



にのみや学園通信

中学校における主体的・対話的で深い学びの姿

2学期に入ってから、にのみや学園の各校において校内研究プロジェクトが本格的に始まっています。9月17日(水)は二宮中学校にて校内授業研究会が行われました。3年生の全クラス(A組は数学、B組は社会、C組は保健体育)にて研究授業が行われました。

数学は二次方程式、社会は経済成長と私たち、保健体育は器械運動の学習を行いました。どの授業も教師からの一方的な指導ではなく、学習課題を自分事として捉えられるよう工夫された授業が展開されました。タブレット端末の活用だけではなく、グループでの話し合いや実技では、友達の意見にしっかりと耳を傾け、自分の考えとの関係性を意識しながら自らの学びを深めていました。



授業後、すべての教員が一同に会し、グループごとに授業者と共に研究授業を振り返りました。先生方は、自らの指導力向上のために生徒たちの話し合い活動同様に熱心に意見交換を行っていました。その後、二宮町教育力向上アドバイザーの吉新一之先生の指導講評をいただきました。

吉新先生からは、にのみや学園の現在の取り組みは、紛れもなく次期学習指導要領の実現に向けた取り組みそのものであり、『本質的な小中一貫教育』の実現を常に目指していくことが大切であるというアドバイスをいただきました。さらに、本質的な小中一貫教育とは、『9年間を通してこれからの時代に必要な資質・能力を育てていく学びをデザインし、子どもの成長を切れ目なく支えることにある』という『本質的な小中一貫教育』の在り方の指針をいただきました。吉新先生ありがとうございました。今後ともご指導のほどよろしくお願ひいたします。

～実現するために大切なことは、本質的な「小中一貫教育」を実現すること～

現在の取り組みは、次期学習指導要領の実現に向けた取組そのもの

「深い学びの実装」

- ①深い学びの実現に向けた取り組みの重視→問題解決で「最適解づくり」と「合意形成」を学ぶ
- ②主体的な「対話」と「話し合い」の重視によって、追究力を養い「協働的な学び」を充実させる
- ③学びを「自分事」にして「深い学び」を実現する
- ④学び合いと助け合いにより「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

「多様性の包摂」

- ④受容的で、どの子にも居場所があり、安全・安心な学級づくり
- ⑤自分達の話し合いで、規範を作り、それに基づいて行動できる学級集団づくり
- ⑥毎日・毎時間の学習を通して、よりよい人間関係づくりを積み重ねていく

実
現

小中一貫教育



基本的な考え方

- | | | |
|--|---|-------------------------------------|
| 小中一貫教育の目的を
「資質・能力」を育成する
「主体的・対話的で深い
学び」の実現にして | 「共通性と個性」の手
立てで「9年間連続」し
て「資質・能力」を育成
することで | 義務教育終了にふさわし
い「学力」と「成長」を
保障できる |
|--|---|-------------------------------------|

研究会に取り組む二宮中学校の先生方の姿には、今後も子どもたちと共に学び続け、教師として成長していくとする前向きさを感じました。…すべては「にのみや学園の子どもたち」のために…

感想等はこちらのフォームにお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>



にのみや学園通信

中学校におけるよりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の取り組み

9月18日(木)は二宮西中学校にて校内研修会が行われました。

今年度二宮西中学校は、文部科学省から神奈川県教育委員会が委託を受けた「よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業」に取り組んでいます。そのため、今回は中郡中学校教育研究会道徳部会、二宮町小中一貫教育ワーキンググループ道徳部会に所属している先生方も多く参加されました。

3年3組の担任である長岡真武先生が研究授業(主題名:みんなが幸せになるためには)を行いました。先生は導入でICT機器を活用し事前に生徒たちが入力した「秋麗祭(文化祭)に対してどんな印象があるか」の意見交換から授業を始めました。その後、先生は『しあわせ』の資料を範読しました。範読後、本授業の中心発問である「それぞれ思っていることが違う中で、みんなが幸せな秋麗祭になるには何が大切か考えよう!」を伝えました。まず、生徒たちはワークシートに自分の考えを記入しました。記入している生徒たちの姿勢には、『秋麗祭』という学校行事の在り方についてより深く考えていくという意気込みを感じることができました。

先生は、この後の話し合い活動の司会と板書を務めてくれる人を生徒たちに募集しました。しばらくしてから立候補で2名が申し出してくれました。生徒たちは、課題を自分事としてしっかりと捉え、クラスメイトの司会進行だったこともあり、和気あいあいとした雰囲気の中、自分の考え方や思いを積極的に発言していました。生徒たちは、発言者の考え方をしっかりと傾聴し、話の内容を自らの考え方と比較するといった協働的な学びがしっかりと実践されていました。

授業の最後に生徒たちが記述したワークシートには、「お互いを知ることが大切である。」、「誰一人としていやな思いをしないためには、協働することを通じてより良い雰囲気づくりを心掛けることが大切。」といった本時の内容項目である『相互理解・寛容』につながる記述が多く見られました。



授業後、授業者と共に研究協議を行いました。授業に参加していた生徒たちの小学校時代の担任からは、「小学校時代に比べ子どもたちが大きく成長した様子が見られた。」、「子どもたちに任せて授業を開いていたのが素晴らしいかった。」といった小中一貫教育の成果がうかがえる嬉しい感想を聞くことができました。

その後、東京学芸大学永田繁雄教授からご講演をいただきました。先生から本時の授業実践について「子どもは連続的に成長しているのに断層的な授業を行っている教師が多くいる。しかし、今回の長岡先生の授業はそうではなく、素晴らしい。」というお褒めの言葉をいただきました。さらに、「子どもは特活と道徳の学習を分けては考えていない。合意形成を図ろうとするのは特活であり、道徳は自分事として『納得解』を追求することである。」という道徳教育の本質について多くのスライド28ページに及ぶ資料を活用され大変分かり易くご指導いただきました。永田先生ありがとうございました。…すべては「にのみや学園の子どもたち」のために…

感想等はこちらのフォームにお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>

